

5月の人権放送「優しい言葉遣いをしよう」

みなさん、こんにちは。今月の人権目標は「優しい言葉遣いをしよう」です。

今日は、優しい言葉遣いについて考えましょう。

まず、あなたはどんなときに優しさを求めるのでしょうか？テストで100点取ったとき？ドッジボールで勝ったとき？そうではないですね。調子の良いときには、優しさなんかなくても、人は平気でいられます。いけいけどんどん、わたしは無敵。でも、人はいつでも調子が良いわけではありません。例えば風邪をひいて動けないとき。けがをして痛いとき。大切な人が亡くなってしまったとき。つらくて悲しいときだって、あります。優しさとはそのようなときこそ、必要とされるのです。

けがをしたら痛いでしょう？その痛みは、放っておけばいつか自然に治ります。でも、薬を塗ったりばんそうこうを貼ったりしてもらえれば、傷の治りは早くなる。人の心も同じです。時間をかければ、たいていの心の傷は治ります。ですが、そこにあなたの「大丈夫？」という一言があれば、心の傷だって治りは早くなる。いろいろな優しい言葉があればあるほど、それが包帯のようにあなたの傷を包み、早く治してくれる。

優しさとは心の救急箱のようなもので、優しい人はいろいろな薬をたくさん持っています。あるときは「大丈夫？」、あるときは「ありがとう」、あるときは「ごめんね」、そのほかにも、きっといろいろあるでしょう。そして、この救急箱は、誰しも必ず持っているものなのです。どうしてかというと、どんな人にも必ずつらくて悲しい思い出があるからです。つらくて悲しい経験が、人を癒やす薬をつくるのですね。

ただ一つ、違うところがあります。本当の救急箱は、使えば使うほど薬は減っていきませんが、心の救急箱は、どういうわけか使えば使うほど増えていくのです。「ありがとう」と言えば言うほど、「ごめんね」と言えば言うほど、心の救急箱の薬は増えていきます。だから優しい人はより優しくなっていくのです。

天久っ子のみなさんは、どうですか？本当は優しいのに、ついつい薬を出し惜しみして「大丈夫？」という一言がかけられない。そういうこともあるかも知れませんか。でも、あなたの持っている優しさという薬は、出し惜しみしてはいけません。なぜなら、あなたの一言で救われる人もいるからです。最初の優しい一言を、ぜひかけてあげましょう。

これで、今月の人権の放送を終わります。

(人権教育担当 公文 慎也 教諭)